

夏休み防災図書コーナー



1 開設期間

2024年7月15日(月)～9月10日(火)
資料室開室時間：9時30分～17時30分

2 定員

読書感想文作成ブースの利用 6席
※室内が混雑している場合はご利用まで
お待ちいただく場合がございます。

3 図書貸出し

対象：小学生・中学生
冊数：1人1回2冊まで(4週間)
※初回利用時は生徒手帳や連絡先がわかるものをご持参ください。

7月15日(月)から9月10日(火)まで「夏休み防災図書コーナー」を開設します。阪神・淡路大震災、東日本大震災などに関する物語やエッセイといった児童書を期間限定で貸出し＆読書感想文作成ブースを開放予定！夏休みの読書感想文は人と防災未来センターで防災について書いてみましょう！



この寄贈資料の情報を集めています！

JRの電車に使われたヘッドマークを寄贈頂きました。復興応援一元気HAKOBEこうのとりキャンペーンや実際にこれを付けて走っている様子が写っている写真など、この資料に関する情報を集めています。
情報をお持ちの方は5階資料室にご連絡ください。
(連絡先はこのページの下をご参照ください。)

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな？」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
URL <https://www.dri.ne.jp/>
開室時間 9:30～17:30 (展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)
閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
DRI The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute

資料室ニュース



Vol.84

2024年
7月発行

震災資料のメッセージ 2024(前期)

「その支援物資、ホントに大丈夫？」

災害が発生したとき、被災地支援の一つとして物資の提供があります。国内外から届くこれらの支援物資によって多くの被災者が救われてきました。

しかし、必ずしも支援物資のすべてが被災地で役立つとは限りません。むしろ「**第二の災害**」を引き起こす原因にもなるのです。こういった問題は阪神・淡路大震災のみならず、東日本大震災や能登半島地震でも起きています。

今回の展示では、支援物資の中で一般的に「扱いに困るもの」と判断される資料を紹介します。しかし、決して送り手の善意や支援の気持ちを否定するものではありません。災害時における実用性と復興を願う善意との間に生まれるジレンマを考えるきっかけになればと思います。

また本展示の補足資料として、「支援物資を送るとき
の注意点」を配布しております。支援物資による「第二の災害」を防ぐために私たちができる工夫は何か、それを考える手助けとなればと思います。ぜひ手に取ってお読みください。



展示の様子

場所 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター西館3階(有料ゾーン)

期間 2024年7月2日(火)～12月1日(日)

震災資料専門員からの出張報告

今回の出張は…

神戸市長田区にある神戸映画資料館です。ここでは2024年4月12日（金）～16日（火）に「カメラを持った男たちー関東大震災を撮るー」の上映が行われました。関東大震災の様子を撮った3人のカメラマンに焦点を当て、彼らが撮った映像から何をを知ることができるのか、私たちに記録する意味を問いかけてきます。

今回の出張はこの映画の鑑賞と、上映後のトークイベントに参加しました。



▲神戸映画資料館

映画について…

1923年9月1日に起きた関東大震災。大混乱の中、その様子を撮影した岩岡巽・高坂利光・白井茂の3人のカメラマン。手回しカメラを通して彼らは何を見たのか。残されたフィルム映像や関係者へのインタビュー、研究調査から3人の行動や記録する意味について問う作品です。



▲トークイベントの様子
(左)井上実氏(右)林勲男(人防資料室)

トークイベント…

トークイベントでは、この映画の脚本・演出を担当した井上実氏と、人と防災未来センター震災資料研究主幹の林勲男氏が登壇しました。映像記録の重要性や今日性のほか、震災映像アーカイブの意義や価値、課題について話し合いました。また、「なぜ映像（記録）に残そうとするのか」という心理についてや、3人のカメラマンや、阪神・淡路大震災の写真・映像資料を残した人々などの「記録する営み」について論じていました。

おわりに…

人と防災未来センターの寄贈資料には多くの震災当時を写した映像資料があります。今回の参加は撮影者の「記録する営み」が詰まった映像資料をいかに分析・公開していくかを考える機会となりました。私たちは寄贈資料に込められた寄贈者の「記録する営み」を真摯に受け止める気概を持って、資料の保存活用や震災ビデオ変換ラボの利用促進に活かしていきます。

震災ビデオ変換ラボ 開設中！

ご自身・ご家族の撮影した震災記録ホームビデオ（磁気テープ）※は、資料室内に設置した機器を使用して、ビデオファイルやDVD等へ変換できます（利用条件あり・要予約）。※テレビ放送の録画や販売パッケージの複製にはご利用いただけません。



▲利用案内

詳細は <https://www.dri.ne.jp/material/about/donation/video-lab/>

新着資料紹介

【寄贈資料】

1. 阪神・淡路大震災 江井島総合市場 炊出し記録
平成7年2月24日 兵庫区 平野小学校
(約19分)
2. 阪神・淡路大震災 江井島総合市場 炊出し
長田 真陽小学校 平成7年3月17日(約20分)
寄贈者：橘佳孝
撮影年：1995年



平野小学校における炊出し風景
資料番号：585-000001

震災後の炊出し風景を、寄贈者の父親が撮影したものです。映像には、1995年2月24日ならびに3月17日の炊出しボランティアの活動や、避難所（平野小学校、真陽小学校）の様子が撮影されています。子どもたちが集まって食事をしてい様子や、住民たちがコーヒーを飲みながら体を温めている様子なども映っています。

【寄贈資料】

1. 神戸市西区伊川谷(約3分)
2. 西宮市武庫之荘東(約16分)
寄贈者：山崎弘明
撮影年：1995年



(発災当日)神戸市西区伊川谷
資料番号：596-000001

寄贈者は震災当時、新幹線の保線に関わる仕事をしていました。夜勤から帰ってきた直後に地震が発生し、すぐに伊川谷の現場に向かうと新幹線の高架が崩落していました。事務所にあったVHSのカメラを手に取り、崩落した状態を撮影しました。なお、鉄道電話は通じていたため、寄贈者は東京の総合指令部に現状を連絡しました。

1本は地震当日の朝7時ごろに撮影した伊川谷の新幹線高架の様子です。崩落距離は100m程とのこと。

もう1本は1995年3月8-9日に撮影された、西宮市武庫之荘東でのレール交換工事の様子です。寄贈者本人もこの工事に参加していました。崩落距離は300～400mでした。



(H7 3月)西宮市武庫之荘東
資料番号：596-000002

